

小麦「タマイズミ R」栽培マニュアル

Ver 1(平成 29 年)

「タマイズミ R」(R は Resistance=抵抗性の意味)は、農研機構次世代作物開発研究センターで開発された硬質小麦です。「タマイズミ」にコムギ縞萎縮病抵抗性遺伝子 ($YmYm(t)$) を導入することで、「タマイズミ」の欠点を改良しました。

○コムギ縞萎縮病に強い抵抗性を持ち、ほとんど発病しません。



タマイズミ R

タマイズミ

(コムギ縞萎縮病常発ほ場)

コムギ縞萎縮病検定試験結果(H27播)

品種名	発病程度(0無~4甚)
タマイズミR	0.3
タマイズミ	2.5

- ・コムギ縞萎縮病の発生地域へ導入することで、収量や品質の向上が期待できます。
- ・コムギ縞萎縮病の発生を抑えるために播種時期を遅らせる必要はなく、適期播種により苗立ちの安定や生育・収量の確保が期待できます。
- ・「タマイズミ R」についても極わずかに発病する株がありますが、収量への影響はありません。

○生育特性は「タマイズミ」とほぼ同じです。

播種年度	品種名	出穂期	成熟期	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	倒伏 程度 (0無~5甚)	コムギ 縞萎縮病 (0無~5甚)	収量 (kg/10a)	同左 比率 (%)
H27	タマイズミR	4月14日	6月3日	95	8.9	691	0.0	0.0	62.5	110
	タマイズミ	4月15日	6月2日	97	8.6	589	0.0	0.0	56.6	100
H28	タマイズミR	4月22日	6月9日	80	8.8	476	0.0	0.0	45.4	123
	タマイズミ	4月22日	6月9日	81	9.6	473	0.0	3.0	36.9	100

注)試験場所は伊賀市。播種時期はいずれの年度も11月4日

- ・コムギ縞萎縮病に強いことを除き、生育特性は「タマイズミ」とほぼ同じです。
- ・コムギ縞萎縮病が発生する条件では、「タマイズミ」より顕著に多収です。
- ・赤かび病や穂発芽については「タマイズミ」と同様に注意が必要です。

○加工適性（中華麺、醤油）についてもタマイズミと同様です。

中華麺

品種名	めんの色相	ゆで直後 食感	ゆで直後 食味	ゆで7分後 食感	総合評価
タマイズミR	-0.15	0.26	0.00	-0.41*	0.115
タマイズミ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.000

* は、5%水準でタマイズミと比較して有意差があることを示す。

評価：三重県製粉工業協同組合

醤油

品種名	香りの強さ	香り 総合評価	うどんだし 総合評価
タマイズミR	3.125	3.125	3.0
タマイズミ	3.000	3.000	2.9

評価：ヒガシマル醤油株式会社



☆このため、「タマイズミ R」は小麦で初めてタマイズミ群として産地品種銘柄申請しています。

栽培のポイント

コムギ萎縮病に強い特徴を生かし、収量と品質(タンパク含有率)の確保を目指しましょう。適正な播種と施肥がポイントです。

栽培暦(対象:伊賀地域)

月 旬	10月 上 中 下	11月 上 中 下	12月 上 中 下	1月 上 中 下	2月 上 中 下	3月 上 中 下	4月 上 中 下	5月 上 中 下	6月 上 中 下
生育ステージ		出芽	分けつ		幼穂形成	止葉抽出	出穂・開花		成熟期
主な作業	排水対策 土づくり	播種 除草剤散布	麦踏み (つなぎ肥)		穂肥1	穂肥2	実肥 赤かび防除		収穫

播種

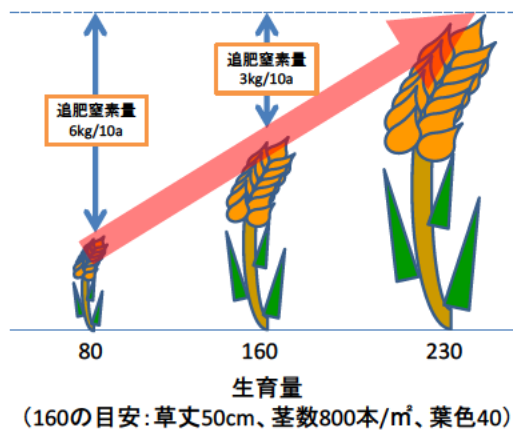
- 播種適期**: 10月下旬～11月上旬
コムギ萎縮病に強い伊賀地域では10月下旬から播種が可能です。
- 播種量**: 6～8kg/10a、
目標苗立数: 120本/m²
播種時期が遅れた場合は苗立率が低下しやすいので播種量を増やします。

施肥

- 基肥**(播種時): 窒素、リン酸、カリをそれぞれ7kg/10a施用します。
- つなぎ肥**(12月下旬～1月中旬): 播種年内に降雨が多い場合や、葉色の低下(SPAD値で40以下)がみられる場合、窒素、カリをそれぞれ2kg/10a施用します。
- 穂肥1回目**(幼穂形成期、2月上中旬): 窒素、カリをそれぞれ3kg/10a施用します。
- 穂肥2回目**(止葉抽出始期、3月中下旬): 安定多収とするため、生育量に応じて施肥します(下囲み左参照)。
- 実肥**(開花期～開花2週後、4月下旬～5月上旬): 適正なタンパク含有率とするため必ず施用します(窒素で4～6kg/10a、下囲み右参照)。

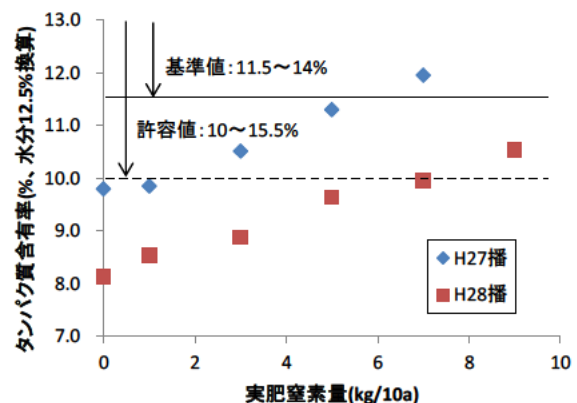
収量確保のために

- 穂肥2回目**(止葉抽出始期、3月中下旬)
・生育量(草丈:cm×茎数:本/m²×葉色:SPAD/10000)が160程度であれば窒素で3kg/10a施用します。



品質(タンパク質含有率)確保のために

- 実肥**(開花期～開花2週間後、4月下旬～5月上旬)
・窒素成分で4～6kg/10a施用することで、やや湿潤な土壌においてもタンパク質含有率を品質基準の許容値(10～15.5%)の下限値以上にできます。
- ・粒が充実することで増収も期待できます。



この栽培マニュアルは、現地試験や一般栽培が進む中で、より良いものに更新していきます。

三重県農業研究所